

資料5：平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」運営の方向性について（案） 資料6：平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」分科会編成（案） 参考資料：平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」分科会リーダー・担当職員 一覧

1. 市長あいさつ

- ・平成 23 年度末にお礼を申し上げて、1 ヶ月余りで、また改めて平成 24 年度の推進会議のお願いという形でごあいさつさせていただく。
- ・職員の異動もあり、また、推進会議からのご提言もあったように、分科会の編成を変えている部分がある。推進会議は、市民会議のあり方や運営の仕方にも、ご意見を賜る場所となっている。不都合な点があれば、その都度、変えながら進めていく形が取れば良いと思っている。
- ・分科会に、慣れないメンバーも入ることと思う。私たちも、事前に勉強して臨んでいくが、それぞれの分科会で、委員の皆さんからご指導いただきながら、進めていければと思う。推進会議が、全体のとりまとめをしていただける場所。今後とも、ご指導いただけるようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

2. 事務局紹介

事務局より、資料 2 「第 6 次高浜市総合計画推進会議 委員名簿」に基づき説明。

3. 議題

1) 「第 6 次高浜市総合計画推進会議」「高浜市の未来を創る市民会議」の役割とスケジュールについて

事務局より、資料 3 『「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現を目指して』、資料 4 『平成 24 年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュール（イメージ）』について説明。

—質疑なし—

2) 平成 24 年度「高浜市の未来を創る市民会議」の運営の方向性（案）について

事務局より、資料 5 『平成 24 年度「高浜市の未来を創る市民会議」運営の方向性について（案）』について説明。

【質疑等】

- 委員：
- ・資料 4 に、下期に実行とあるが、上期に実行することがある場合はどうするのか。上期での点検内容をもって、下期でアクションプランの見直しを行うのも、上期の活動と考えれば良いのか。
 - ・資料 5 の提言 4、当初の計画以外に扱うテーマが発生した場合、別にプロジェクトを立ち上げるというのは、どのタイミングで立ちあげるのか。
- 事務局：
- ・まず、アクションプランの実行についてだが、アクションプランは 4 月から実施が始まっている。市民会議で実行していただくものは、幅広いアクションプランの中から、上期でテーマを決め、考えることも含め、下期にできるようなことを選んでいただきたい。
 - ・点検・確認については、市民の皆さんからいただいた提言を踏まえて、行政で考え、アクションプランを組み立てていく。
 - ・次に、プロジェクト立ち上げについては、まだ、具体的に立ち上げを予定しているわけではない。昨年度の反省を踏まえ、市民会議で行うこと以外のことを、取ってつけたように市民会議で行わないようにするため、

資料のような姿勢をお示した。

- 委員：・生涯学習は、地域の人をたくさん巻き込んで、アクションプランを考えた方が良い。そういったものは、昨年の教育基本構想の検討委員会のように、別プロジェクトを立ち上げることを、今の内に形にしておいていただいた方が動きやすいのではないか。
- 事務局：・現在、職員を中心としたプロジェクトの立ち上げを検討している。その中で、市民の皆さんの声が必要になれば、市民の皆さんを含めたプロジェクトにつなげていきたい。
- 委員：・生涯学習は、子どもからお年寄りまで、広く関わる分野。昨年度は、何でも市民会議で声を聞くという感じに疑問を感じていた。プロジェクトで明確に運営していただけるのはありがたい。
- ・資料5の提言6に、職員の皆さんにいろいろ参画していただくという、とてもありがたい提言が入っているが、協働で行う以上、横割りでやっていきたいと、昨年度から盛んに申し上げてきた。職員の皆さんにも、市民会議を利用して、横の連携をしていただければ良いと思う。例えば、各部局長は、必ず推進会議を傍聴するなどしていただき、そこで出た話を各部局に持ち帰って、連携してほしい。そうすると、市民会議も別の意義を持つことが出来る。
- 委員：・本日は、後ろに、職員リーダーが傍聴しているが、直接、接しなければ伝わらない部分も多いと感じている。行政は縦割りになっているとの声も多く聞いている。そのため、市民会議の職員説明会で、市民会議に臨むにあたっては、事前に職員メンバーでしっかりと打合せを行い、分科会同士の連携や調整をするようお願いをした。

3) 平成 24 年度「高浜市の未来を創る市民会議」の分科会編成（案）について

事務局より、資料6『平成 24 年度「高浜市の未来を創る市民会議」分科会編成（案）』について説明。

【質疑等】

- 委員：・教育・子ども分科会を、生涯学習分科会と教育分科会に分けていただいたのは、賛成だが、「教育」とすると、生涯学習との棲み分けが難しいため、「教育」を「学校教育」にしてはどうか。今後、教育分科会で進めていくアクションプランは、教育基本構想が基になり、学校が中心になっている。「学校教育」とした方が、より分かりやすいと思う。
- 委員：・分科会の名前が短くなり、見やすくなった。「憩い」というのは、どういうことを位置づけているのか確認したい。
- 事務局：・総合計画の目標9が「環境」、目標11が「憩い」に該当し、環境・憩い分科会では、2つの目標について進めていただく。潤いのある都市環境をつくるため、公園緑地、街路樹、水辺空間づくりに参加したことがある人の割合を増やしていけるよう、実行していただきたい。

- 会 長： ・新規で参画いただく方は、本人の希望の分科会に入っているのか。
- 事務局： ・第3希望まで希望を聞き、基本的には、第1希望のところに入っている。
- 委 員： ・防災については私、防犯については杉浦委員がリーダーという形ではどうか。
- 事務局： ・下期に実行していただく際、防犯と防災の2つのテーマを取り上げる場合、おっしゃった通りやっていたらと思う。
- 会 長： ・担当を分け、2人ともリーダーとすれば良い。
- ・ご意見いただいた、「教育分科会」を「学校教育分科会」と名称変更する点、「防犯・防災分科会」の防災担当リーダーを井野代司彦委員、防犯担当リーダーを杉浦盛仁委員とする点の2点を承認いただきたい。

—異議なし—

- 会 長： ・本日、各分科会の職員リーダーに出席いただいているため、ご紹介をお願いしたい。

(各分科会職員リーダー自己紹介)

4) 平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」の日程について

事務局より、第1回市民会議及び第2回市民会議の日程について提案。

—第1回市民会議を5月28日(月)、第2回市民会議を6月26日(火)とする—

- 会 長： ・委員の皆さんに、本日の説明についてのご意見・ご感想等を伺いたい。
- 委 員： ・市民メンバー52名という数は、事務局としてどう感じているか。
- 事務局： ・各分科会で、23年度のメンバーに対しての声かけに温度差がある。新規で14名加わっていただいたことはありがたいが、継続していただくことも大事であるため、しっかりフォローしていきたい。
- ・総合計画の目標として、3年間でのべ100名の方に加わっていただきたい。前回は73名、今回の新規の方が14名であるため、87名となる。出来れば、今回100名達成したいと思っているため、しっかり掘り起こしをしていきたい。
- 委 員： ・全体会を必要最小限の回数にすることは、賛成。自分の分科会は、当然、一生懸命やるが、そのために他の分科会の進行状況などが分からなくなると困る。事務局で、他の分科会の様子が分かるようにしてほしい。
- 委 員： ・年々、新しく入る方が減っている。今年、人がたくさん入るように頑張って活動したい。
- 委 員： ・毎回、似たようなメンバーがそろっていることが多い。少しでも、若い人が参加できるような雰囲気づくりを、私たちが努力が必要だが、行政にも動いていただきたい。
- ・環境・憩い分科会の職員リーダーから、子どもを切り口という話があり、生涯学習分科会や学校教育分科会との連携になる可能性があるのでは

はないかと思った。これは、今後考えていかなければいけない。

- 委員：・資料6の「(案)」はもう消えたのか。
- 事務局：・職員メンバーは確定したが、市民メンバーは、4月26日に向けて掘り起こして、参画を呼びかけていくため、編成についてはまだ確定ではない。
- 委員：・環境・憩い分科会は、非常に幅広い分野。メンバー編成についても、広範囲に、いろいろなところからメンバーを集めてほしい。
- 委員：・3月をもって、市内600箇所に、標高の見える化のシールが貼られた。こういったシールが貼られていることを宣伝していただきたいし、改善や検証をしていかなければいけないと思っている。
- 委員：・防犯を進めていくにあたり、市の施策を進めていくのか、関係団体・警察などとタイアップして意識改革をしていくのか、市の基準をつくってみんなで行動していこうというものなのか、対応によって違ってくると思うので、考え方を教えていただきたい。
- 行政：・PRと、各団体との協力、いろいろやっていかなければいけないと思う。バランス良くやっていきたい。具体的には、今後考えていく。
- 委員：・これまで、地域福祉分科会は、障がいに関わる方が多く、そちらの意見だけにならないよう、幅広く見ていこうということで進めてきた。今まで出てきたたくさんの意見を、いよいよ今年、実行に移す形に少しずつなればと思う。活動の受け皿側の理解を得るためにも、まち協や町内会のメンバーに入っただけだと、各地域で福祉を根付かせることができるのではないかと。市民会議の中で話されたソフトの面、人と人がつながる部分を、私たち市民目線でやれるところというところ、その点ではないかと思う。その辺りを踏まえて、メンバー編成をお願いしたい。
- 委員：・資料5の提言7にある通り、市民会議への女性や若い世代の参画は、絶対に必要だと思う。また、多様な意見が反映できるようにメンバーを構成するとあるが、例えば、健康分科会であれば、健康に精通した人が入った方が良いのか、全然、関係ない人でも良いのか。
- 事務局：・精通していなくても、健康について一緒に考えていきたいという想いの方が大事だと思う。勉強会などを通して、初めての人でも分かっていたらいいように、進めていきたい。分科会の中でも、趣旨や、やっていることを分かりやすく説明して、カバーしていきたい。素人の方でも、想いを持った方であればどなたでも良いと思う。
- 委員：・市民会議の職員説明会であいさつさせていただいたことを、改めて述べさせていただきたい。

『高浜市の未来を創る市民会議が2年目のスタートを迎えるにあたり、各部局から58名の推薦をいただき、本日お集まりいただいた。昨年より11名増え、また、皆さんの顔を拝見し、大変心強く思う。皆さんは、市を代表する立場として、気合いを持ち、ぜひやり抜いていただきたい。

まず、1つ目に、市民会議の中で、自分の伝える力を高めていただきたい。“伝える”とは、どう伝えたかではなく、どのように伝わったかということ。この力を蓄えるためには、積極的に発言し、失敗を繰り返しながら、身につけていく他ない。ぜひ皆さんには、会議では、最低1回は発言することをお願いしたい。また、分かりやすく伝えるために、どうすれば良いかを、考え続けていただきたい。

2つ目は、行政内部での横のつながりについて。市民の皆さんから、行政は縦割りになっているとの声をよく耳にする。そこで、市民会議に臨むにあたっては、事前に職員メンバーでしっかり打合せを行い、分科会同士の連携や調整をしっかりお願いしたい。

最後に、市民会議では、市民の皆さんの声にしっかり耳を傾け、市民の皆さんとの信頼関係を築いていただきたい。その積み重ねこそが、総合計画の実現に向けて、大きな力になると信じている。1年後、参加して良かったという声が聞けることを願っている。』

- ・職員リーダー始め、職員がしっかりやっただけと思う。
- 会 長： ・職員メンバーが11名増員された。これは、行政の取組み意欲の表れだと思う。期待している。
- ・市民メンバーも、まだ時間があるので、お声かけしていただきたいというご意見があるが、まち協や町内会の役員さんなどにも、声をかけていただきたい。例えば、財政に関しては、どこの地縁団体が専門ということはない。財政に明るいまち協があったら、助かるのではないか。自治推進は、まさにまち協・町内会の活動。生涯学習もまち協にもっと関わっていただくべき。集团的自己決定能力の確立のためには、集団の中で構想力を育てていくという考え方がある。子ども会や老人会、婦人会など、各年代、分野別の団体にも声をかけると良い。学校教育は、PTAに本格的に関わっていただきたい。産業・観光は、商工会、商店街振興会、農業委員会、JCなどに声をかけていくことが必要ではないか。環境・憩いは、まち協、町内会。防犯・防災もまち協、町内会に加えて、消防団や防犯協会などの当事者団体にも優先的に声をかけて、入っていただくべきだと思う。声をかけることが逆にマナーだとも思う。こういった団体への声かけは、市民委員さんにばかりお願いするのは、少し荷が重いと思う。その辺りは、職員リーダーのお力を貸していただきたい。

4. その他

- ・議事録の内容については、書面表決とする。

今後の日程

第2回推進会議：6月21日（木）午後7時～

第1回市民会議：5月28日（月）午後7時～ ※中央公民館

第2回市民会議：6月26日（火）午後7時～